

入庁1年目職員 × 先輩職員 対談 <事務職>

「採用1年目はどうでしたか？」1年目の職員と、いつも隣で成長を見てきた先輩に話を聞いてみました！



納税課

1年目職員

水野 綾子

先輩職員

菅野 絢子

■この一年仕事をしてみての感想は？

水野 最初に納税課に配属されるときには、税金の知識もなく、大丈夫かなという不安がありました。でも、必要な知識は、税務部の新人研修や週1回の課内研修で学ぶことができたので、安心しました。また、菅野さんが隣の席なのですが、いつも頼りになる先輩がそばにいる、ということがとても心強かったです。

菅野 よかったです。4月の中旬からすぐ忙しくなって、毎日いろいろと新しいことを覚えてもらったので、最初はいきなりしんどかったと思いますが…、大丈夫でした？

水野 最初は大変でした。特に、電話対応に苦労しました。でも、隣で菅野さんが、私の電話でのやりとりをずっと聞いていて、その都度すぐにアドバイスをくださいました。また、先輩の対応を聞いて勉強したり、内容について教えてもらったりすることで、自分で対応できる範囲が広がったと思います。納税課には、税金を払うのが厳しいと言われる方からの電話が多いのですが、法令どおりの説明をするだけでなく、まずは相手の話をよく聞くことが大切だと教わりました。少しずつですが、話の内容を理解したうえで、状況に応じた対応ができるようになってきたと思います。

■先輩職員として、特に何に気を付けて指導されましたか？

菅野 新採用職員の指導は初めてでしたので、いつも気にかけていました。仕事以外のことで、例えば、職員としての心構えから職場のルールみたいなものまで、細かいことまで伝えてきました。自分が採用当時に不安だったことなどを思い出して、積極的に話かけるようにしていましたね。

水野 いつも気にかけていただいて、うれしかったです。仕事についても「何回でも聞いていいよ。」と言っていただき、とても質問しやすかったです。

菅野 毎月1回だけの仕事も多く、覚えるまでは大変だと思いましたので。次第に、水野さんの質問の回数も減ってきて、仕事の流れが掴めるようになったのが分かりました。今では、作業スケジュール

<水野さんの仕事紹介>

納税課は、市税の収納・滞納整理など、市税の納付に関する業務を行っています。私は収納管理係で、市税の口座振替を担当しています。

具体的には、納税者の方から申し込まれた口座の内容を金融機関へ送付して、口座振替ができるよう準備したり、振替結果を確認したりしています。

細かく期限が決まっている仕事が多いため、スケジュール管理が大変ですが、何度も確認をしながら業務を行っています。

その他にも、電話での納付相談の対応をしたり、窓口当番の日には、市税の収納などの業務もしています。

ルを確認しなくても、大丈夫だなと安心しています。

水野 最初は、様々な仕事を断片的にしていたのですが、半年くらい経ったころから、毎月の仕事の流れが掴めるようになりました。

菅野 私は、水野さんに説明することで、自分の成長にもつながったかなと感じています。実は、説明する前には、こっそり、昔の資料を読み返して、自分自身でちゃんと整理するようにしていたんですよ（笑）。曖昧な教え方はしないように気をつけました。

水野 おかげで、私も理解が深まりました。自分が教える立場になったときも、菅野さんにしていただいたように、しっかり説明できる先輩になりたいです。

■これからどんな職員になりたいですか？

水野 企画から携わるような仕事もしてみたいと思います。そのためにも、いろいろなことに興味を持って、常に学び、広い視野を持つことが大切だと思います。

菅野 そうですね。例えば、積極的に研修を受けることもおすすめですね。私も、今年度は法制執務や電算研修などを希望して受講してみたのですが、じっくり学べてとても有意義でした。私が研修でどんなことを学んだか、水野さんが興味を持ってくれていたので、勉強熱心だなと感心しました。

水野 入庁してみて、研修が充実していることに驚きました。私は新採用職員の研修カリキュラムを1年を通じて受講しました。その他にも、希望者が受講できる研修がとても豊富ですよ。まだ受講したことはないのですが、どんな感じなんですか？

菅野 研修では、知識を学ぶのはもちろんですが、普段の仕事では関わらない部署の職員の方の話が聞けたり、他の自治体の職員の方と情報交換ができたりと、新たな刺激があって、きっと良い経験になると思いますよ。また、税金以外の分野の研修でも、職場が快く送り出してくれるので、とてもありがたいです。

水野 分かりました。広い視野を持つためにも、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいです。